教科目名　日本史　(History of Japan)

学科名・学年　：　情報工学科，都市・環境工学科　　1 年
単位数など　：　必修　2 単位　（前期 1 コマ，後期 1 コマ，授業時間 46.5 時間）
担当教員　：　田中美穂

授業の概要

古代から現在まで日本の歴史の流れをつかみ，それぞれの時代について理解を深める．近現代史を重視し，日本の事柄だけに目を向けるのではなくて，世界における日本の位置づけ，および中国・韓国を中心とする近隣アジア諸国と日本との関係についても考える．また九州・沖縄地方が舞台となる歴史的事柄も重視する．

達成目標と評価方法　　**大分高専目標(A1)**

(1) 日本史の流れや基本的な用語を覚え，日本史に関する基礎学力を身につける．（定期試験）
(2) 過去とのつながりを尊重しつつ，現代を考える力を身につける．（定期試験）
(3) 歴史を学ぶことで，日本各地の地域性や日本社会の多様性について理解する．（定期試験）
(4)「世界のなかの日本」「アジアのなかの日本」の未来像を描き，平和な世界の実現について考える．（定期試験）

回	授業項目	内容	理解度の自己点検
1 2 3 4 5 6 7 8	縄文・弥生文化 古墳文化と飛鳥の朝廷 律令国家の成立 奈良時代 平安時代初期 国風文化と院政 平氏政権 元寇	○古代史の流れが理解できる． ○律令国家体制について理解できる． ○九州を窓口とした大陸の文化や技術の導入について理解できる． ○貴族的な都市文化の繁栄について理解できる．	【理解の度合い】
9	前期中間試験		【試験の点数】　　点
10 11 12 13 14	前期中間試験の解答と解説 鎌倉仏教 室町幕府の創設 戦国大名 ヨーロッパ文化と織豊政権 江戸幕府の成立	○中世史と近世史の流れが理解できる． ○武士が支配する社会について理解できる． ○日本文化の諸要素の形成について理解できる． ○戦国時代の歴史について理解できる．	【理解の度合い】
15	前期期末試験		【試験の点数】　　点
	前期期末試験の解答と解説		
16 17 18 19 20 21 22	経済と産業の発達 幕藩体制の動揺 開国 幕末から明治維新へ 政府専制への批判 日清戦争と日露戦争 大正デモクラシー	○近代史の流れが理解できる． ○中央集権的な政治体制の完成について理解できる． ○幕末から明治維新にかけて，日本の歴史の大きな転換期について理解できる． ○明治以降，国際社会の中に組み込まれていく日本の動きについて理解できる．	【理解の度合い】
23	後期中間試験		【試験の点数】　　点
24 25 26 27 28 29	後期中間試験の解答と解説 社会運動の展開 日中戦争 太平洋戦争 占領と国内改革 高度経済成長 日本の課題	○現代史の流れが理解できる． ○日本の帝国主義と植民地支配について理解できる． ○第二次世界大戦における日本の位置づけについて理解できる． ○現代の日本と日本社会が抱える諸問題について理解できる．	【理解の度合い】
30	後期期末試験		【試験の点数】　　点
	後期期末試験の解答と解説		

履修上の注意	授業中にノートをきちんと取り，予習と復習をしっかりすること．	【総合達成度】
教科書	小風秀雅ほか著，『新選日本史Ｂ』，東京書籍．	
参考図書	随時，授業中に紹介する．	
自学上の注意	授業で次回の範囲（頁数）を伝えるので，教科書を読んで予習しておく．	
関連科目	世界史，歴史学特論Ⅱ（専攻科）	
総合評価	達成目標の(1)～(4)について，計 4 回の定期試験の平均点によって評価する．出席状況・授業中の態度により 10%を上限として減点する．総合評価が 60 点以上を合格とする．4 回の定期試験の平均点が 40 点以上 60 点未満の者には再試験を行うことがある．この場合の実施方法，条件などは授業において明示する．	【総合評価】　　点